



がん教育用ロールプレイング教材 未完成マンガ

BACKGROUND

必修化した「がん教育」の授業内容に悩む教育現場。

令和3年度に中学校で必修化した「がん教育」の普及支援を文部科学省が進める昨今。教育現場が抱く「専門性がない不安」や「伝える内容への迷い」を知った日本がん・生殖医療学会は、実際の医療現場の知見を活かした「がん教育」教材の開発に着手。知識の学習に留まらず「がんとともに生きる心構え」の習得を目標に掲げた。

IDEA

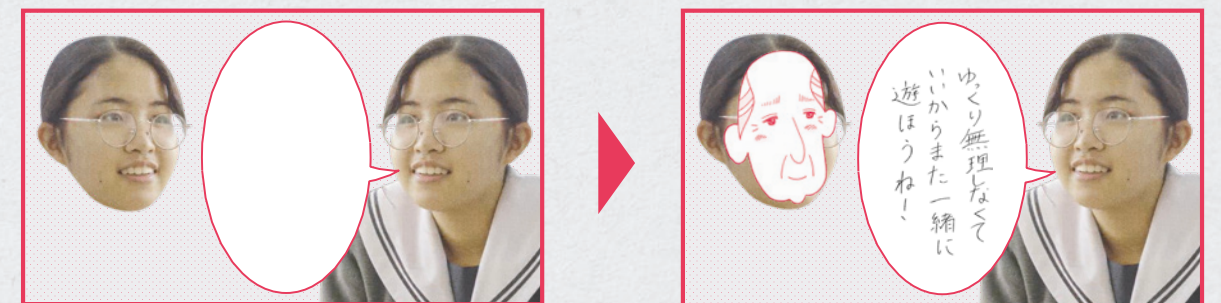
がんの罹患者になりきって「かけられたい言葉」を書く。

医療の研修で重視される「患者役のロールプレイング」を、中学生が短時間でも没入できるマンガ形式で教材化。がんに罹患している登場人物になりきって自分が「かけられたい言葉」を空白のフキダシに書き込んでいく。想像する体験を通じ、誰もががんになりうること、がんになった人を思いやる大切さを学ぶ「がん教育」だ。

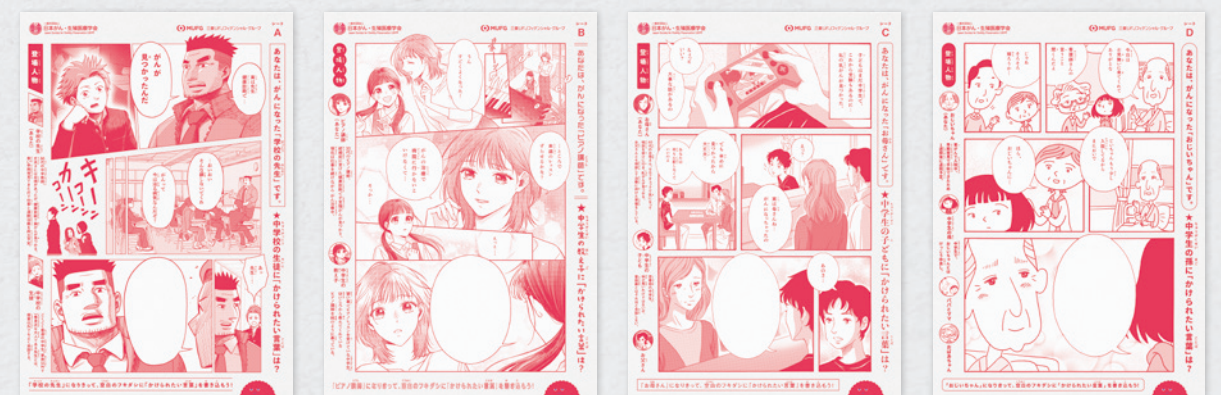
RESULT

生徒・保護者から高評価。メディア・教育界も注目。

「がんになった人にどんな風に声をかければいいのか考えられた」といった生徒の感想に加え、保護者も9割近くが教材に高評価で、認知度1割未満だった「がん教育」の重要性も9割以上が感じたと回答。テレビ・新聞・ウェブなど50以上のメディアでニュース化し、「授業でやってみたい」と投稿されるなど教育界からの注目も。



未完成 = 空白のフキダシを、聞き手のがん罹患者として望むセリフで埋める。



「厚労省が指針で検診を勧める5つのがん」×「中学生にとって身近で関わりのある人物の罹患」の組合せから設定やテイストの異なる4種類を用意し選べる形に